

音楽美にひたる心



『音楽の基礎能力を高める指導』

う主題で行われた中教研音楽部会の席で、指導助言の先生から音楽の基礎についての説明をおききしているうちにひどく心うたれたれた言葉があつた。

音楽の授業で、あるいはクラブ活動で、中でたしかめ、究めてきたものだったよ。夏休みになると同時に白熱化する部活動、それが我が音楽クラブ

男の生徒が休むとリーダー格の生徒が電話で呼びつけて集めてくれた。「腹筋」をさばつてている男生徒の足をひっぱつて指導していた部長の姿。腹式呼吸の方法がのみこめない一年生に手とからだで教えている三年生。それは、文字どおり私の手足になつて動いている生徒の姿なのである。

入部したばかりのころはヨチヨチ、オドオド。先輩の言うとおりにしかできなかつた一年生も、二年生になるとからだもガツチリ、発声もしつかりしてきて、目標もちゃんと持つようになる。

そんなことのくりかえしをしているうちに、いつか全員の心が不思議とぴつたり一つになる時がくるのである。それは、むずかしい曲を八分どおり歌いあげたころだろうか。夏休みも終わりに近づくころであろうか。

うたつて、うたつて、腹の底から声を、心をふりしほつて、ファイナーレをうたいあげる時、なんとも言えない音楽美に感動するのである。

部長が高らかに掲げた目標の三つ。

歌が好きで入った“か”趣味や特技としての音楽にみがきをかけたい“などと生意気な表現までするようになる。更にそれが三年生になると、態度にも発声にも落ち着きとみがきがかかり最後の年という心情からか、“コンクールでは是非入賞したい”という言葉が必ず出るようになってくる。

私はこの変化というか、変容のしかたをみつめながら夏休みを迎えるので

私はこの変化というか、変容のしかたをみつめながら夏休みを迎えるのである。

基礎とは音楽美にひたる心である。音楽美とは、作曲者が訴えたいものと音楽の要素を使って表現したものであるから、その心は聴く人の出会いによって違つてくる。即ち、一人一人が感覚の陶やにおいて、知識、技能の面でどの位深まりを持っているかということ、そして更にたいせつなことは、人間としてどのくらい高まっているかということである。』と。

私はこの話をきいているうちに、私たちが生徒とともに求めしてきたもの、

普員一人一人の心がハラハラで心のハーモニーを生み出すのに苦労を重ねた年、など。

夏休みに入ると中体連から解放された男の生徒が入部してくる。十名程度であるが、まず音楽の好きな生徒たちである。

(喜多方市立第二中学校教諭)

かわいい協力者があつた。声が出ない三年生のいる時、卒業した生徒が電話で連絡して聞くと部長が電話で連絡する。男の生徒が休むとリラクゼーション室で腹筋をひっぱって指導している。腹式呼吸の方法が、手に手とからだで教う。それは、文字どおり私動いてる生徒の姿を撮影して、入部したばかりのことをドオド。先輩の言うと、なかつた一年生も、一年だもガツチリ、発声をきいて、目標もちゃんと歌が好きで入つた。としての音楽にみがきどと生意気な表現まで更にそれが三年生になら後年の年という心情から必ず出るようになつてある。夏休みに入ると中体たをみつめながら夏休みであるが、まず音楽の

厳しい運動クラブの練習を経験してきた者はばかりであるが、それ以上の厳しい腹筋や发声練習にまず音をあげる。そして必ずといっていいくらい、一人か二人の落後者がいる。私はそれでも知らんふり。そのうちお互に励まし合いながら、いつの間にかまたメンバーがそろう。

そんなことのくりかえしをしているうちに、いつか全員の心が不思議とぴつたり一氣になる時がくるのである。それは、むずかしい曲を八分どおり歌いあげたころだらうか。夏休みも終わりに近づくころであろうか。

うたって、うたって、腹の底から声を、心をふりしぼって、フィナーレをうたいあげる時、なんとも言えない音楽美に感動するのである。

部長が高らかに掲げた目標の三つ。

- 一、楽しく充実したクラブにするために、自主的に参加する。
- 二、心を合わせ、技を磨き合う。

三、県大会に出場し、入賞する。

この中に、子供らの願いと姿があるのだと思う。そして、厳しい練習の中から育くまれる協調の真のよろこびに、また美しいハーモニーの中に、私は音楽美にひたる心をみたような気がするのである。